

1913
大正2

七条大橋百周年

~2015

平成23

七条大橋は、意匠の欄干、趣ある「照明柱」13年(大2)4月14日、当時の昭和18年、戦時の金属供出で井上京都市長や大森京都府知事が開通式に参列、36年にヤット現在のものになった。続く「渡り初め」その姿は、戦前のもの(写真)とは本町十一丁目、市田宇兵衛84歳うた子73歳を先頭、近隣学区生徒300人その他市民が2発の爆声の合図に万歳を三唱し続いた。橋は市電と伏見の陸軍師団と京都を結ぶ「師団街道」に接続してあり「戦車」の重量にも耐えるべく強固に造られ、デザインも伸びやかなアーチ、繊細なめと思いが如何に！。



大正二年4月十五日
七条大橋「渡り初め」式典で小旗を振る参加の子供達



発行(株)サカタニ
集西薬・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993 京・
東山区七条こころ坂下
・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
Eメール info@sosake.jp
編集・酒谷義郎
yosirou@sosake.jp

見の陸軍師団と京都を結ぶ「師団街道」に接続してあり「戦車」の重量にも耐えるべく強固に造られ、デザインも伸びやかなアーチ、繊細なめと思いが如何に！。

粥食べておシャベリ会が百回目になる。第1回2005年2月から始めた。当初は月2回「お粥を提供する」だけだった。その頃は参加者も少なく「お粥」が沢山残り、捨てるのは勿体無いと毎食お粥を家中で食べ続けた。三ヶ月経つとようやく人数が定着し、お粥の前に30分程「お話」をお聞きいただく現在の形が出来た。そして2009年5月18日に50回目「早川一光先生」を迎えて催した。最近では、定員40人何時も満員。



4月21日(日)第三日を「とお願いしたところ、生きていたらよかった」と仰つて下さり、それに甘えて、今回になった。先生のお話を聞き、これからの生き方が学べる。既に「お粥」は定員満杯。お話は写真も朝粥会

第百回 朝粥食べておシャベリ会

講演・早川一光先生

朝粥食べておシャベリ会 報告

第99回定例会：3月17日(日) 定例 第3日曜日 講師・日赤：京都府本部 事業推進課長 山田二三男様 「東日本大震災から2年が経過して」 日赤京都支部は、東日本大震災に一番早く救援隊を現地入りさせ他と聞く、山田さんも三度現地で活動された。その実体験から、緊急時食料の準備とそれを扱う方法を話された。泥水でもご飯が炊ける「方法」の実演も、試食も出来た。



「どんつき」先日「お花を届けたい」の依頼を受けたので、お店の場所をと花屋さんから電話が入った。イベントもないの？。一応お教えした。 小一時 問してこの「花束」が届いた。送り主は「会員さんのYK氏」だ。 札に「七条大橋・おめでと」とある。電話を入れると、今号トップに記した「祝う会」のことがその日「リビング京都」載ったからだから仰つた。 私どもにリビング紙は配布されて無いのでネットで見た。裏表紙に、私他数人の写真入で報じられていた。他新聞へ幾度か「橋のこと」で投稿したが不採用だったが。 私が戴いたのではないので「七条大橋」まで持つていつて写真を撮った。私も「花束」が届き驚いたが、一番仰天したのは貰った「橋」だ。 誕生した時は超盛大に「祝い」されたが、後は汚れ傷つき知らんふり。枯れた涙を百年ぶりに流したのであろう。私も貰い泣きました。 **あと誰が涙するか？！**



ヨシイちゃんのひとりごと



同窓会の

無い時代



同窓会があった。私と15歳離れた弟もその一員だ。同校の一年先輩に沢田研二(ジュリー)

先週、我「アベノミクス」的に表現すれば「ヨシタミクスの超インフレ。高校時代初めての修学旅行」があったが統制時代で「お米」を持参。そして朝鮮戦争のなかで卒業した。全面講和・単独講和で世論は二分され下山・三鷹・松川・と今では考えられない不可思議な事件が連続して起った。京都では民主戦線統一候補が知事・市長になった。その様な大波の中でも、子供から青年時代お互いの友情を育くみ生き、学び、遊んだ。イジメは有ったが陰湿ではなかった、弱いものは集まって強いものに對抗するこ

とで耐えた。学生だけでなく、地域も「隣組・とんからりん」と「ヤミ物」の分け合い。子供も町内で面倒を見た。同窓会はその延長上にあるとヨシイちゃんは思っ。団塊の世代以後は同窓会もないとか。団結も死語になりそうな世代らしい。私の小学校の卒業還暦同窓会は六年前、高校のクラス同窓会は、卒業時の組担任が命名した「裸木会」は年に二回ありなんと百二回目を五月開催する。

その時代は、敗戦の焦土も消え、日本経済の高度成長期、学校の民主化、生徒数も多く学校生活も自由な雰囲気だったのだろう。今、65歳になった彼や彼女たちの会話や楽しく歌っている様をもれ見聞きすると現在の地位や立場を越えた友情と絆が感じとれた。



同窓会は、卒業時の組担任が命名した「裸木会」は年に二回ありなんと百二回目を五月開催する。

一方、私は昭15年(1940)貞教尋常小学校に入学、卒業は「国民学校」だった。小学校時代は「トップリ」戦時中、給食は「大豆油の搾りかすの入った飯」そして高学年は戦時疎開。昭21年旧制立命館第三中学校に入学したが、占領軍の指導で六三三に学制が変わり、習っていた先生も「戦争協力

シャツターを下ろす前に

石動敬子

「この通りの名は?」「シャツター通り」と苦笑された店主のことを思い出す。東北本線黒磯駅前だった。例によって青春十八切符で乗り継ぎ帰省する途中で、三月の雪解風の吹く午後だった。確かに商店街はシャツターを下ろした店が多く不景気そうな風が吹くばかりだった。震災の起る前年だったと記憶している。

題もあり40年来の店を閉まつと貼り紙にあった。迂闊だった。気づくまでに3週間も経っていた。鰻には仲々手が延びず自転車を利用することが多くその前を通らなかつたらこんな具合なのかと思つた。あのご夫婦の日々のかわらぬ姿はなんとなく駅前の活気をもし出してははらずだった。そのようにして消えてゆく店や人がいくつあつてもそういう時代なのかと諦めるのが普通になつてしまつている。「世にある人と棲み家とかくの如し」と看破された鴨長明と同様の気分とでも言つた。「行く川の水は絶えずしてしかもこの水にあらず」は、いつしか自分も還暦を越えてしまつて、やがてと思つ気分にも似る。然し、百年の七条大橋に熱いエールを送る人が居ることを知つて半年足らず。その心意気や良し。そういう人達が今も居てくれて、集まつて昔のことを語つてくれているのは心強い。パソコンなどと向き合つてはいるばかりのオフィスや学校というイメージの昨今だが、熱く語る年輩の叡智「そ今もつとも信頼するに足る」と思っている。

京に学びしころ

宇野正人



僕が、京都にいた期間は、昭和39(1964)年から昭和45(1970)年の6年間です。その間、全国を吹き荒れた、いわゆる学園紛争も経験してしま



光客が不思議そうな顔ををして、我われを見ていたのが印象的でした。京都の学生用のアパート、間借り、下宿は、金銭的に、移転が楽でしたので、大部分の学生は移転を繰り返します。最後は、出町柳下がる川端のアパートでした。そのアパート、学年は違つものの、全員が同一の立命館大学文学部日本史専攻の学生でした。その専攻のせいもあつてか、友人ともども、京都の神社社寺仏閣には、かなり足を運んだつもりです。そこで、一番驚いた

ことを記します。烏丸六角にある六角堂を訪れた時です。熱い日差しの日でした。山門を入つたとたん、回れ右です。というのも、六角堂のお堂には、黒々とした長い髪の毛が幾筋も奉納されていたからです。しんと静まつた、人つ子独りいない境内で、そういう光景をみたら、誰もが逃げ出したくないませんか。続きは、次の機会に

宇野正人様へご紹介 隠岐島、千葉県ご在住・立命館大学・名城大学大学院・修士・現在・江戸川大学文学部教授 編集者のFB友達。ご文を読ませて戴き、編集者も立命館に学んだことから(ある事で除籍)厚くかましくご投稿をお願いし快諾くださいました。京都と京都人を外から見られて「辛口の批判」を六話程連載でとお願いしています。

京都&東山
ぶらりピカリ

38

桜の名所

円山公園



円山公園には枝垂桜、染井吉野、山桜など約100本の桜があり、毎年多くの花見客で賑わう。その公園の中央にあるのが写真の「祇園の夜桜」として有名な祇園枝垂桜です。正式名称は「一重白彼岸枝垂桜」

二代目 初代は昭和22年に枯死、昭和24年に植樹されたもの。そして三代目も既に準備されているそうだ。初代は「宝樹院建内氏」の庭にあったが「院」が消失し、その後周りが取り払われ人目につくようになった。明治6年、明石博高と言つお方が、そこを通ると「斧で切るつとしていた」「何をするか」の問いに「払い下げで印材に」との答えを聞き「印にし売った値の五両払って」残ったもの。その明石氏は、温泉好きで有馬温泉の成分を分析、合成して「蒸気缶」で温め、高台に金閣に模した「温泉場」をつくった。人はそこを「東山温泉・円山温泉」と呼んだ。そ

市電が走った
京都を巡る
福田静二

26



今出川 大宮を発車した市電は、今出川通を東へ向かいます。前回は西陣織物館(現・京都市考古資料館)など、市電時代は、西陣の歴史を伝える京町家やレトロな建物も見られました。最近になって、私はこの付近を通ることが多くなり、その後の変化ぶりを、この眼で感じ取っています。市電時代にはなかった駐車場を設けた外食チェーン店が通りに見られるのも、西陣のその後の変化ぶりを感ぜさせます。

広い堀川通が見えてくると、まもなく到着するのが「今出川堀川」の電停です。堀川通が広いのは、戦争中の防火帯のための拡張によ



今出川堀川に到着する東行きの市電



白峯神社の境内から見た今出川線の市電

るものですが、街並みの雰囲気も堀川通を境に何となく変わってきた感じがします。社寺仏閣にも流行り廃りがあるとなれば、これから紹介する二つの神社は、以前は、それほど人を集めることもなかったのに比べて、現在では、注目のスポットにもなっています。

今出川堀川を東へ、今出川通に続く土塀・鳥居が見えてきます。白峯(しらみね)神宮です。明治元年に明治天皇により、父の孝明天皇が慕っていた崇徳天皇を祭神として創建されました。ほかに、淳仁天皇も一緒に祀られています。

ここは、蹴鞠(けまり)道の飛鳥井氏の邸宅跡であったため、境内には蹴鞠の神様である「精大明神」が祀られ、球技の神様として知られています。春夏の精大明神祭では、平安貴族の装束を身につけた人々によって古式ゆかしく蹴鞠も奉納されます。

ここ数年のブームで参拝者が増え、境内はく狭いところですが、観光シーズンともなると、境内の外にまで、若い女性であふれます。境内に足を踏み入れると、そこかしこに、五行思想を現す魔除けのシンボル、五芒星が見られ、普通の神社にはない雰囲気を感じます。

こんなに接近している地域に、特色のある社寺があるのも、いかに京都、と言つ感じのある今出川堀川です。

酒屋で生きて 生かされて



第七十七話

三月が原点

トロッコを外せの忠告

たよりに「母」が出来ました。そして妹一人と弟が出来ました。下の妹弟は私が名づけ親です。

父は酒の統制会社が民営化した「甲酒卸・日酒販」荷捌き所の委託を受け酒卸の仕事。店は祖母が「居酒屋」、義母と二人店員で酒小売を担当していました。

昭和24年に酒卸「乙免許」を得て酒小売を辞め「酒谷本店」との名で酒卸業を始めました。免許申請前に高校一年の私に意見を聞きましたので「卸業には反対だ」といいましたが「まあ申請はする」でした。酒が「丸公」で良く儲かる時代でした。

店も小売から卸用に改造、事務所、裏の蔵までトロッコの線路を敷きました。酒の特約・祖父の代は「ユニオン麦酒」を扱っていたので関係の深い「朝日麦酒特約代理店」になり、人付き合いに長けた父で商売は好調でした。

その頃、伏見の有名なお菓子屋さん(父の戦友)が来られ、私の前で父に「酒谷はん、トロッコを外しなさい家相に悪い」と告げられました。「家相やて?」と思っ

て聞いていると「外さない店が潰れる」といってお帰りでした。私は「家相」は迷信だと思っていましたし、父も無視を

しました。だがその後昭和30年3月15日、個人経営「酒問屋 酒谷本店」は破産寸前になったのです。私もただでなく、酒問屋では

多くの店が(酒屋以外でも)「トロッコ」を導入していました。その殆ど潰れたり廃業され、導入されてないところは今も盛業中で

す。それを見えて考えると「家相」は迷信でなく「統計の集約」だと思っ

ています。人力では運ぶのはつらいが、トロッコなら楽。結果として不良在庫が増え、経営を圧迫したのだと思っ

20歳の時の 写真を見つめる



や食わず「の生活をしていた頃で体重は42kg、今は62kgと少々。

100歳までボケない 101の方法 白澤卓一 著

(文春新書)を読んだ。その中に表題の小文がある。出だしに、【アア、あの時は若かったなと、懐かしがるためではありません。】

それで自分の写真を探した。ヤツト。一枚見付かったのが、この写真。頭の毛は黒く、痩せています。その時代、家を飛び出して「食っ

この欄は、会員の深谷純一様(元大学講師)の昨年10月の朝粥会資料から引用

シルバーストック

「ほら、席が空いたからあなた座りなさいよ!」「あらあら、いいの?悪いわねえ。でも私腰が悪いから座らせてもらおうわ。」

「最近若者に席を譲られることが多くつてねえ。」

「自分では元気なつもりなのに、声をかけられるとびっくりしちゃうよね。本当にわたしなので。」

「ね、そうみえるのかしら」「こゝろに気持ちは若いのに。ほほほ。意やねえ」確かにおばさんとおばあさんの境目で微妙だよなあとおは頷く。(中略)「でも譲られた

た断れないよねえ。「親切は無下にできないもんねえ。」「私だつてもっと上の年齢の人が来たら譲る事あるもんね!」「そうそう、まだ譲られるばかりの年齢じゃないわ。」「おばあさんの会話から初老のプライドを垣間見た気がした。

初老って思春期と同じくらい複雑なお年頃。実は「壊れ物につき取扱い注意」なのかもしれない。

そんなことを考えていたらいつの間にか降りる駅にと到達していた。慌てて立ち上がると「ずつと立っていた方のおばあさんが「ラッキー」という顔でサツと座った。ううう

ん、やっぱり複雑「取扱い注意」には違いないけど、あまり「壊れ物」でないかも。私は満足そうなおばあさんの顔を横目に、苦笑いで電車を降りた。(履修生A子)

編集後記

四月は年度替り1月1日とは

チヨット違った代わり目です。官庁関係も年度代わりで、予算を使い切る努力をされると思います。

学校関係も四月から新学期、入学式もあります。それで思い出します。1940年の入学式、雨の日に

ました。美しい6年生女の人が「下駄箱と傘たて」の場所へ案内してくれました。祖母が「オツルヤさんの娘さんやと教えてました。

その頃は日中戦争、南京陥落の花電車、紀元2000年の行事も覚えています。そんな古いことを覚えていて、今そのことを忘れず。

パソコンの入力間違いも増えたり、既に書いた事を一度書き直すし、もつと「とんからりん」も限界がなあと思ったりします。そんな時、「投稿くださった方が

増える。校正をしてくださる方もできた。また若い。百歳のFB友達もできた。

先月その方の「文」を掲載させてもらった。お陰で百歳でもやれるのだと勇気はもらえた。

たまに、読んだえとの声もある。が、残念な事に「読者」の友の会会員さんが増えない。年度末には会員登録更新をお願いしている。お友達を誘って欲しい。お酒

呑みのお人大歓迎、申込書を同封しました。オオキニビっせ